

平成28年3月15日

# 産業厚生委員会

阿久根市議会

1. 日 時 平成28年3月15日(火) 13時30分開会  
15時46分散会

2. 場 所 第1委員会室

3. 出席委員 仮屋園一徳委員長、白石純一副委員長、中面幸人委員、  
野畑直委員、濱崎國治委員、牟田学委員、  
岩崎健二委員、山田勝委員

4. 事務局職員 議事係主査 大瀧 昭裕

5. 参 考 人 阿久根商工会議所  
会頭 下園 満

6. 補 助 人 阿久根商工会議所  
副 会 頭 栢 壽一 副 会 頭 鮫島 和正  
相 談 所 長 宇 都 英 行 指 導 課 長 寺 地 和 彦  
経 営 指 導 員 田 上 雄 二

7. 会議に付した事件

- ・ 請願第1号 南九州西回り自動車道サービスエリア等建設に関する請願書
- ・ 平成27年陳情第14号 新規創業者(予定者)を支援する補助金の創設の陳情書

8. 議事の経過概要

別紙のとおり

## 議事の経過概要

### 仮屋園一徳委員長

ただいまから産業厚生委員会を開催いたします。

本日は、先の委員会で審査を一時中止しておりました、請願第1号及び平成27年陳情第14号について審査を行います。これより審査に入りますが、本日は先の委員会で決定しました、今回の請願及び陳情の提出者である下園満氏を参考人として呼び出して、意見をお聞きいたしますので、よろしくお願いいたします。

ここでお諮りします。出席を求めた参考人から補助人を同席させ、委員からの質疑内容によっては、補助人に答弁させたいとの申し出がありますが、これを許可することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と発言する者あり]

御異議なしと認め、補助人の同席を許可することといたします。それでは、参考人の出席をお願いします。

(参考人、補助人入室)

それでは、参考人の下園満氏、補助人の栞壽一氏、鮫島和正氏、宇都英行氏、寺地和彦氏、田上雄二氏に出席いただきました。本日はお忙しいところ、本委員会の審査のため御出席いただき、まことにありがとうございます。委員会を代表してお礼申し上げます。

ここで、本委員会の審査状況に関して、御報告いたします。今回提出いただきました請願及び陳情については、2月26日の本会議で本委員会へ付託され、3月2日の委員会で審査を行いました。提出者の意見等も伺い、審査の参考としたいため、本日も越しいただいたものです。どうかよろしくお願いいたします。

それでは、審査に入りますが、補助人の方々の業務上、初めに、平成27年陳情第14号の審査から入りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、平成27年陳情第14号、新規創業者(予定者)を支援する補助金の創設の陳情書の趣旨について、参考人から御説明をお願いします。

### 下園参考人

こんにちは。創業者支援についてはですね、補助人である事務局のほうから説明させていただきます。その後、パーキングエリアの件については私のほうから後ほど説明させていただきますので、どうかひとつよろしく願いいたします。

### 田上補助人

いつもお世話になっております。阿久根市商工会議所、田上と申します。本日は委員会にお招きいただきましてまことにありがとうございます。新規創業者を支援する補助金の創設ということで、こちらの趣旨を御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

陳情書の陳情項目第1、阿久根市内で起業した小規模事業者への補助金制度の創設ということですが、阿久根市の商工業者数の推移を見ると、ここ15年間で300事業者が減少しております。減少にいたっては歯止めが効かない状況であります。そこで新規創業者の増加を進めなければ、減少の一途をたどるのみとなります。当所のほうで新規創業相談の状況を御説明いたします。現状としましては、阿久根市内で起業したい方が来られる窓口としましては、当所や金融機関が大半でございます。新規に起業したいという

方はまず、事業計画からですが、初期投資及び運転資金の準備ができていない方が多いです。外的状況ですが、国や県の補助事業もございますが、近隣市町村ではすでに新規創業者へ対して何らかの補助制度が準備されております。

そして最後に、我々の考えとしてですが、新規事業者が起業初期の負担の軽減を図り、起業しやすい環境を整備することによりビジネスチャンスや雇用の創出を図り、地域の活性化及び流入人口と定住人口の増加につなげたいと考えております。3点ほど項目として挙げさせていただいたんですけども、まずもって準備したいと考えているものは補助金制度の創設であり、陳情書、2の創業支援ネットワークの設置及び3のその他創業者の支援に関することについては、将来的に実施できればと考えます。

以上、簡単ですが説明いたします。

#### **仮屋園一徳委員長**

それでは、ただいま説明いただきました平成27年陳情第14号について、参考人に対する質疑に入りますが、ここで、参考人にお知らせします。参考人は委員からの質疑にお答えいただきますが、参考人から委員への質疑はできませんので、あらかじめ御了承願います。なお、参考人が補助人から答弁させる場合は、委員長へ補助人から答弁させる旨の申し入れをしてからお願いします。

それでは、各委員から質疑がありましたらお願いします。

#### **濱崎國治委員**

今、参考人補助者のほうからいろいろ説明がありました。私も農業とか漁業等には数多くの支援がありますが、商工業者にはなかなか支援が行きわたっていないというのが実情ではないかというふうに考えています。そこで、先ほど説明がありましたが、初期投資や運営資金の少ない、足りない人が多いというのと、近隣市町ではすでに取り組んでいるような話もありましたが、そこで、どういう市町が取り組んでいらっしゃるのかおわかりでしたらお願いいたします。

#### **下園参考人**

事務局のほうに答えさせていただきます。

#### **田上補助人**

申し上げます。出水市のほうでは、新規創業者支援事業補助金という形で、出水市全域ですね、市内全域、旧高尾野町、野田町地区も含まれた補助金ですけども、空き店舗を活用する新規創業者に対しての家賃補助ともう一つ、改装費用の補助というものを創設されております。それともう一つ、いちき串木野市のほうですが、こちらは空き店舗等活用促進事業補助金とありまして、こちらはいちき串木野市内全域の対象で、旧市来町も対象となります。こちらの内容としましては、空き店舗を活用する新規出店者への家賃補助、それと改装補助というふうに伺っております。

以上です。

#### **濱崎國治委員**

今、出水市といちき串木野市の話がありましたが、ほかの県内の状況を把握をしてらっしゃいましたら、今のところ2市ということで理解してよろしいんですか。

#### **田上補助人**

近いところで申し上げますと、薩摩川内市のほうも空き店舗に対する改装費の補助がございます。

#### **濱崎國治委員**

この陳情書での状況は、このいちき串木野、あるいは出水、あるいは薩摩川内市と、そ

ういう具体的内容に入ればそういうのを創設してほしいというお考えですか。

**田上補助人**

おっしゃるとおりでございます。

**仮屋園一徳委員長**

ほかの委員から。

**山田勝委員**

私は、新規創業者に対してですね、あるいは空き店舗を使おうという人に対して補助をしたり、あるいは支援したりするということについてはですね、やぶさかでないことだと思いますよ。だから、会議所のほうからはですね、もうちょっと早くからでもですね、こういう提案をしてですね、もしそれで創生するならやってほしかったなあと思ってますよ。ただ、新規事業者がいるのかいないのかという時にですね、それはどこでどういうふうにして調査してるんですか。

**田上補助人**

当所のほうで直接窓口や巡回におきまして、そういう相談を受けております。

**山田勝委員**

失礼ですが、何件くらい、あなたがですね、回って何件くらいはこんな相談を受けましたというのを具体的にですね、こういうのをやりたいんだがというのを具体的にもうちょっと話をしてください。

**田上補助人**

平成27年度としましては、6件、事業者数でございます、その中で1件かいつまんで申し上げますと、よその出身者の方なんですけれども、県のほうからの紹介がありまして、地元のジビエをちょっと活用した飲食店を開きたいという方が相談に来られまして、若い方なんですけれども、なかなかノウハウは持ってらっしゃってもそういう資金がないということで、何かしらその融資並びに補助金をお聞かせ願えないだろうかということで相談を受けました。その方は今、現在も自己資金を蓄えるのにどういうふうにしたらいいかとか、そういう親身になった相談までされている状況です。こちらもそれに対して親身になって受け応えて支援をしている状況です。よろしいでしょうか。

**山田勝委員**

その人が阿久根で働いていらっしゃるんですか。自己資金を貯めるために。

**田上補助人**

そうです。

**山田勝委員**

やはりそういう人がいるんだったら、やっぱりね、積極的に協力をしてやらないかという気がしますよ。

**牟田学委員**

考え方としてですね、農業も漁業も担い手がいない、いけば跡取りがいないというような、よくわかりますよね。そうした中で、今、阿久根市の商工業に関してですね、今、空き店舗があるじゃないですか、あっちこっち。あれもそういった状況で跡取りがいない、今の不景気のあれもあるんですけど、やっぱりそれが主であって、今この補助に関しては新しく新規でやると、いけば息子さんたちがもうちょっと店を改装して今までやっていた方が、息子がやるんだと言って、そういう目的じゃなくて、新規に阿久根で店を開きたいというための補助という考えでよろしいんですか。

#### 田上補助人

おっしゃるとおりでございます。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかの委員の方から。

#### 中面幸人委員

確かにですね、空き店舗が多いですよ。やはり私なんかもやっぱり今、田舎のほうから農業関係とかいうのはしっかりわかるんですけども、やっぱり街の中についてですね、やっぱり自分たちも考えてはいるんですけどですね、確かにそういう店舗を利用して新しく事業を行うというのは大変いいことだと思いますので、私的にも賛成なんですけど、例えば今回は空き店舗についてのお話になりますけども、例えばそれぞれの通り会がございますよね。単発的に空いてる店舗を、例えば何らかの補助をもらって生き返らせていくというのも大事かもしれませんが、何かやっぱりある程度やっぱり通り会ごとにとかですね、そういうふうにやっぱり計画をやっぱり立ててですよ、単発にするのもいいかもしれませんが、例えばお客さんを呼ぶには、呼び込むにはですよ、やっぱりそれなりの通り会としてですね、何店舗かすればまた活気も出てくるだろうし、そういう将来的なそういう計画も取り入れた中で、そういうのも大事かなというふうに思っているんですけども、今のところ、ただ単発的な部分ですか。

#### 田上補助人

おっしゃるとおりなんですけれども、商店街という組織と個人、あるいは会社というふうになりますと、また意味合いが変わってきまして、商店街に執着したというかですね、そういうふうなことではなくてですね、市外にも目を向けたところに、面的にというか、広く支援をしたいと考えているものですから、今回に限りましては個者というふうにご検討しております。

[「休憩を」と呼ぶ者あり]

#### 仮屋園一徳委員長

休憩に入ります。

(休憩 13:51~14:01)

#### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

ほかに委員から。

#### 野畑直委員

先ほど出水市、いちき串木野市、薩摩川内市と新規創業者支援事業補助金について説明を受けましたけれども、まずこの制度を始めた出水市、いちき串木野市、薩摩川内市の補助金が、制度が始まった年度はわかりますか。

#### 田上補助人

出水市におきましては、27年度の地域創生予算のほうで始まっております。いちき串木野市さんに関しましては、大変恐縮なんですけれども、たしか4年ほど前からだったと確認しております。川内市さんもですね、ここ3年ほど前ぐらいからだったと確認しております。

以上です。

#### 野畑直委員

今、聞いたのはですね、大体いつ頃から始まったのかというのも頭の中に入れながら、この事業の補助金についても大体似かよった上限の10万円とか50万円、薩摩川内市だけは雇用についても補助金をいうふうな内容になっているようですけれども、阿久根市で、私も基本的には隣接のこういう出水市とか薩摩川内市とかいちき串木野市ですので、あらゆる面で周辺自治体とは似たようなことをしていくほうがいいと思っているほうですから、決してこの制度について反対するものではないんですけれども、しっかりとこの阿久根市にどういったものが合うのかというところで、この数値等を出していけばいいのかなと思っておりますので、また商工観光課のほうともよく相談しながらそういう数字が決まっていって、採択に向けていけばいいのかなと思っております。

以上です。

#### **岩崎健二委員**

今、今回の陳情は補助金制度を創設していただきたい旨の陳情であって、その中身についてまでは今のところ具体的にどうというのはできていないと思っております。そういうことでよろしいですかね。

[田上補助人「はい」と呼ぶ]

今後、補助金制度が創設するに当たっては、また再度、市執行部に対していろんな補助金の額とか条件とかいうようなものを、提出をしていただけるものでよろしいですか。

#### **田上補助人**

はい、よろしいです。

#### **岩崎健二委員**

先ほどの話がありましたが、その中で撤退した人への、今までの実例として撤退される業者の数というのはどのくらいあるかわかっておったら教えてください。

#### **田上補助人**

一般的に全国規模で申し上げますと、約2年以内で創業者の1割強ほどしか残らないというふうな数字が出ております。

#### **岩崎健二委員**

そういうことでありますと、阿久根市が仮に補助金を出した場合に、残りの8割強の方に対して補助金返納を求めるということになろうかと思いますが、そこらの指導は会議所のほうでしていただけるんですかね。

#### **田上補助人**

相談者の中で相談を受けて、我々がですね、よりよい計画ができるように支援を行いながら実際に継続して経営が可能であるかどうかの起業に、起業者に対して太鼓判を押せるような起業だけを、太鼓判を押せるような起業だけを進めたいと考えております。

#### **岩崎健二委員**

仮に29年度からこれができると仮定して、おおよそ何件くらいをというのは今考えていらっしゃいますか。

#### **田上補助人**

現状としましては、数値的なものは計っておりませんので、今後検討していきたいなと考えております。

#### **下園参考人**

過去5年のですね、阿久根市の創業者数というのは35件で、平均年間7件、新規創業があるようです。私も資料を見せてもらったんですが、だからそれからいきますと4、5件、年に出てくれればいいのかと、これは私の個人的な考えですけれども、今までが7

件ですから。たしか、この間新聞でちょっと見ました、うろ覚えですからこんなことは録音されているのであれですけれども、出水市がなんか9件、年間に、鹿児島県で最高の数だったというのをちょっと見たような気がするけど、そうじゃないですか。

〔「補助金の話」と発言する者あり〕

というくらいで、そんなに多くはないと思うんですよね、数的には。年には何件かしかないんじゃないかと、仮にそういう制度ができたとしても、というふうに思います。

**仮屋園一徳委員長**

ほかに、委員から。

**白石純一委員**

これは市の制度として設けたいということですが、国や県の創業補助の制度も多ございますけれども、その国や県の補助制度を市が窓口になってやるということとはまた別ということですよ。市独自でということ、今回はですよ。

**田上補助人**

市独自の補助事業というふうな考え方です。

**白石純一委員**

国や県の補助金の際に市が現在、商工会議所さんが認定支援機関という認定を国から受けておられると思うんですけれども、その認定支援機関と市、阿久根市が提携をして、阿久根市自体も認定支援機関と提携をする行政団体という制度が国にあると思うんですけれども、それを今阿久根市は申請していない、県内の自治体ではいくつかあると思うんですけれども、ちなみに最近では、ことしは鹿児島県関係では枕崎市、大崎町、喜界町がこれに申請して認定されたということです。これを市が認定された場合にですね、この市独自の補助金制度にもメリットとなる部分がございますでしょうか。

**田上補助人**

国の創業補助金と市の創業補助金と申しましようか、とは全く別物と考えておきまして、阿久根市独自の創業の補助金を創設するに当たって、近隣市町村、もしくはそれ、県外の方への差別化を図る貴重な一つの事業になるんじゃないかなと考えております。よろしいでしょうか。

**仮屋園一徳委員長**

よろしいですか。

**濱崎國治委員**

ここの陳情項目に二つ目に創業支援ネットワークの設置というのがあるんですが、内容を見て見ますと阿久根市のほうに相談窓口設置とかいろんなのがあるんですが、これまで阿久根市としてはですね、こういう窓口が不足しとったというふうに思います。一つは雇用関係、労働関係にしてもハローワークが全部、全面的にしているし、金融関係の支援等についてはもちろん商工会議所さんのほうが全面的にしていらっしゃって、阿久根市は中小企業相談所支援ですか、それに補助金を少し流しているという状況なんです、この陳情からすれば、阿久根市にも相談窓口設置とか、販路開拓設置、いろんな支援を求められていますけれども、これも市役所の組織的にも充実してくれという、そういう陳情と見てよろしいんでしょうか。

**田上補助人**

おっしゃるとおりでございますが、現状としましては、陳情2の創業支援ネットワークの設置に関しましては、将来的に実施できればと考えているところです。

**仮屋園一徳委員長**

ほかになければ、ありませんか。

なければ、平成27年陳情第14号についての審査を一時中止します。

ここで補助の方には退出ということで。

ここで休憩に入ります。

(補助人退室)

(休憩 14:13~14:18)

## 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで傍聴人の入室を許可したいと思います。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

では、入室をお願いします。

(商工観光課長、商工観光課長補佐、都市建設課長、都市計画係長入室)

それでは、次に南九州西回り自動車道サービスエリア等に関する請願書の趣旨について、参考人から御説明をお願いいたします。

## 下園参考人

改めまして皆さん、こんにちは。今回は私どもが提出いたしました請願書を、また陳情書については市議会のほうで熱心に対応してくださいましたことを改めてお礼申し上げます。ほんとにありがとうございます。またきょうのような機会を与えてもらったこと、また私の個人的な事情で日程まで御配慮いただいたことにつきましても、これはほんとに恐縮してるんですけども、感謝いたします。ありがとうございます。今回の請願書というのはですね、私どもは請願書という言葉そのものは知ってたんですが、どういう意味を持つのか、どういう効力を持つのかというのをよくわからないまま、むしろ手探り状態、あるいは聞きかじりで提出したというなのが本音です、ほんとのところですよ。ですから準備らしい準備というのはしてないんです。商工会議所57年の歴史の中でこの請願書を出したのは初めてだというふうに聞いております。ただですね、阿久根だけかというところじゃなくて、先月の15日でしたかね、県の商工会議所連合会の会頭会議というのがあります。そこで私は実はこの請願書のことをみんなに説明しました。鮫島副会頭と二人で行ったんですが、そしたらもう県内の会頭が誰も請願書というのは知らないんですよ。みんなキョトンとしてるわけです。鹿屋の会頭に至っては要望書を何回出しても行政も議会も一切タッチしてくれないというような不満を漏らしておりました。そこで私が請願書じゃなきゃだめなんだという話をいろいろさせてもらったんですけど、そのくらいこの鹿児島県の商工会議所といわゆる議会、行政というものの連携というのは取れていないんだと私は改めて感じたんです。ですから、ある意味ではこの阿久根が闡明を切ったというようなことを、だと思っただけなんです。ですからできるだけいい結果を出したいと、そして県下にこういう方式というのを広めたいというふうに思っております。伊藤知事がよくTPPというのを言われますよ。私は英語は知らんから白石さんなんか得意なんだろうけど、要するに官民連携、Pはなんな、パブリック、パーソナル、パートナーシップだと思っただけなんですけども、恐らくな、これをな、口で言うほど鹿児島はとにかくやられていないというのが私はつくづく感じております。ですからそういうことで大した準備はしてないんです。ただ、私はきのう慌てて簡条書きでは、これだけは言おうと思って書いては来たんですけども、むしろきょうはですね、皆さんから今後の進め方、そういうものを指導してもら

いたいというような気持ちと、それからもう一つは会議所には50人の議員がおります。会頭、副会頭、それから3号議員、2号議員、1号議員と。会議所というのは皆さん御承知のようにお金を出せばそれだけ発言力がふえると。投票になっても3号議員は6票だけれども、8票か、8票だけれども、私は50票持っているというのが会議所の決議ですよ。そこで50人の議員全員が一人残らず今回の件には賛成してくれたと、実は折口につくったらどうかとか、阿久根の港につくったらどうかという意見もあったんです。しかし、いざ決めた段階で私が協力を求めたら、一人として反対せんかったと。みんなが即座に名前を出してくれたというこの重みですね、ですからこの重みを我々もバックにして、きのうもいろいろ鮫島さんには会議所の3号議員から意見もあったようですけれども、ここで熱を持ってできるだけ皆さんに理解してもらいたいなという思いでおります。そこで私の個人的な思いも入るんですが、これは皆さんも私も全く同じ考えだと思います。鹿児島県の産業を活性化するにはどうしたらいいかと。これは二つの道があると。一つは地元で生産したものをば、関東・関西のような大消費地、あるいは場合によっちゃ海外まで輸出して、そこから外貨を阿久根に持ってくると、地元を持ってくると、そして地元でできるだけ消費可能な形、真水で落としてくれるような産業となれば、農業・水産業といった一次産業、そしてその関連産業の振興だと思うんです。農業・水産業、特に水産業が大事なのは原料代が要らないですよ。黒之浜、浜、倉津、そこいらに原料代も全部落とすわけですから。真水で落とす金というのが圧倒的にパーセントとしては大きいですね。例えばですよ、テープを録ってあるから余り当たり障りのあることは言えないけども、AZが280億くらいですか。そして、八光さんと小原さんが100億前後ということですよ。こういう事業所というのは、いわゆる市民生活を豊かにするとか、あるいは雇用をするとかということでは非常に大きな貢献をしています。ですから伸ばさんといかん。AZに関してはまた別な考えも私にはちょっとありますけれども、ところがよく考えてみると、そういう事業所というのは市民のお金を吸い上げて、よそに持っていく事業所なんですよ、仕入れ先に、大半が。だから落とす金というのは意外に少ない。売り上げの割にはですよ、割合からすれば。もちろん交付金がありますけれども、交付金だけを当てにするようなまちづくりじゃ私はだめだと。やはりよそから持ってくる、先ほども言いました、一次産業のような、こういう外貨を持ってくる産業を伸ばさないかんというのがまずあります。もう一つの、二つのうちの一つというのは、交流人口をふやすこと。一人でも多くの人に阿久根に来てもらって、地元に来てもらって阿久根でお金を使ってもらう。これは飲食業、特産品業を初めとする広い意味での観光産業ですね。この振興を図ること。この二つだと思うんです。三つあるという人もいます。これは鹿銀の永田頭取が、前の永田頭取が私に去年の6月に手紙をくれました。3枚書いて、直筆で。彼はこれにプラス再生可能エネルギー、これを鹿児島県は力を入れるべきだというようなことを書いてありますね。この三つなんです、とりあえずは二つですよ、最初の二つ。今度、我々が西回り自動車道付近につくってもらいたいというのは、この二つを兼ねた施設。中途半端な小さなものは私は要らないと思っています。この二つを兼ねたようなものをつくってもらいたいという思いなんです。例えば、地産地消という言葉があります。私は地産地消に関して、橋崎さんと一回口論をしたことがあります。激しい口論を。橋崎さんは地産地消でいくべきだということを言われました。私はそればかりじゃないぞということがかみ合わなかったんですが、これは勝さんが議会報の中に、例えば学校給食に地元の物を使え、あるいは民生費として補助金・助成金を大量に出している施設、老人ホームとか何とか、そういうところも地元の物を使えと、これは正論だと思いますよ。これはぜひ進めていってほしいと思います。地産地消と

いうのはですね、私は仕事柄、水産業ですけれども、我々の仲間は99.9パーセント、全部市外・県外に売ります。そっからお金を持ってくるんです。市内で売るなんてのは、又間さんとか川本さんとか何軒かはあるでしょうけども、ほかは全部よそに売りますよ。よそがみんな地産地消を言い出したら我々はもう生きていけないということなんです。だから阿久根はさっき言ったように地産他消型、よそで消費してもらおう。こういう産業を伸ばさないかんというふうに思っているわけです。ところがな、今、御存じのように大型バスの事故、あるいはトラックの事故、何百キロ、600キロですかね、超えたら運転手を二人せないかんとか、休憩を何時間とらないかんとかということで、例えば私なんか東京までダンボール1個300円そこらで出しおったものが、今は600円、700円、ちょっとした中継料を要するようなところだと1,000円、宅配便と変わらんというくらいの運賃になっております。例えば、うちが出して、名古屋に翌日着きおったのが、今はもう二日。東京に二日後に着きおったのが三日後とか、そういうふうになってしまってるんですね。だから遠距離にあるというところが非常に不利になってきてます。じゃあその分どうするかというと、まさにさっき言った又間さんなんかがいい例ですよ。もうかってますよ。いわゆる地産地販なんです。地元で売ると。地元で生産したものを地元で売るというのが一番もうかるわけです。ただ具体的に言いますとね、この間、竹原信一さんが私の考えを聞きたいと言って来られた時に私は言うたんですけども、例えば私のうちの一番のメインの商品というのはうめの8匹のトレイパックというものが175円で東京に出します。25円が運賃だとすると、150円がほぼ私の値段ですね。それが298円、ちょうど倍で東京で売ってあるんですよ。150円が。じゃあ仮に阿久根に売り場ができてですよ、AZにもほんとはそれを期待してるんですけども、私が200円を出したとします。すると50円余分に儲かるでしょ。向こうは50円取って250円で売れば、あるいは240円で売れば消費者に今まで298円で売ったのが、四、五十円安く消費者は買えるわけですよ。みんなが喜ぶわけですよ。売り場というのが大事だと思うんです。ですからできるだけ人を寄せる、そういう施設をつくらないかん。この間、レールウェイズ3で島津公保さんと、副議長も一緒でしたが、阿部さんが来られましたね。阿部さんに出水ばかりを舞台にしないで阿久根をしてくれというお願いをしています。阿久根に何がありますかと、阿部さんが言われるわけです。きれいな海がありますと言ってもあのくらいの海は幾らでもありますよ、正直言ってありますよ、どこでもありますよ、このくらいは。もちろんよそに向けては阿久根は最高ですよと言いますが、本音の部分じゃ幾らでもあるんです。阿久根はなかなかないんです。2、3日前、私は鮫島さんやら10人くらい、大口に行きました。大口は曾木の滝があり忠元公園があり何がありと結構あるんですよ、人を寄せるものが。阿久根はないわけですよ。だから私はランドマークとして阿久根につくるとすれば、この後どうなるかわからんけど、グランビュウ、グランビュウをいい加減なものにつくっちゃ絶対だめだと。またいろいろ危険区域だなんだかんだと言ってやめてもだめだと。5億、10億はどうかかわからんけども、仮に市の持ち出しがですよ、10億かかって私をつくるべきだというふうに思ってます。それと今度の物産館、この二つをですね、できればランドマークとして大きな施設にしたい。それに加えて、例えば北からいうなら笠山があり、また黒之瀬戸があり、折口海岸、港、大島、番所丘、牛ノ浜海岸、こういうのをつけ足す、あるいはほうに井祭りとか伊勢えび祭り、こういうイベント、あるいは歴史的な人物で言うなら寺島宗則、河南源兵衛、謝文旦、頼山陽、こういうのをば組み合わせたまちづくり。そうなれば私は10年、20年後はかなりいい街ができるんじゃないだろうかと思ってるんです。創生委員会とか何とかありました。私は一応名前だけ副会

長ですけれども、私は非常に批判的です。あれを見てもな、私は、國治さんなんかわかつといやっかかもしれんけども、第4次総合開発計画、15、6年前になりますかね、つくったのが。あん時私はある会の座長でしたよ。ほとんど変わらないことを言ってるんですよ、ほとんど変わらないことを。同じことを繰り返してる。だから役人がやるのと政治家がやるのはな、違うと思ってるんです。例えば私はここにな、いろんな会に出て気に入ったのは書いてるんですが、例えばどっかに行ってますよ、岩崎芳太郎さんが、我々は行政を相手にするのと、政治家を相手にせえと。議員とか首長を相手にするんだと、そうでないと絶対鹿児島は発展しないぞと。私もまさにそう思ってるんです。だからきのうちょうど商工観光課から上脇君が来ました。そこで上脇君に言ったんだけど、君なんかやがて10年、20年後は市の幹部になるだろうと。例えば今ね、グランビューをどうするか、あるいは物産館をどうするか、サービスエリアをどうするかということになった場合に、この二つをつくれれば、あるいはこの二つがいい加減に終わってしまうかどうかで阿久根の10年、20年後は決まるんだと、自分たちはその決める重要な立場に立っているんだというある意味歴史的転換期にあるんだという意識を持って取り組みと、全て行政が受け身になって、私は行政の何人か幹部にも話しましたよ、この件は。だけどできればやらない、やらないというような消極的、それをやるにはコンサルにどうして、あれにこうして、これにこうして、出水はすでに針原にってことで申し込んでいるわけでしょ、副議長がよく知っているけど。恐らくだめでしょうけれども。恐らくだめやっとな、副議長、理由があるから。だからそういうふうにとどんどん先は進んでいるのに、阿久根は余りにも消極的だと思うんですよ。だからここをばな、一丸となって官民連携でやっていきたいという思いを持っております。ですから、内容についてもこれは私のまだ個人考えで、これから期成会のようなものをつくってもらって、それでそこで話し合っていけばいいと思ってるんですが、私の個人的考えで言わせてもらえばな、例えばサービスエリアであれば宮原・基山程度のもの、それに宗像くらいの道の駅、物産館をつけ足す。私は2月17・18、うっかたと行ってきました、宗像に。驚いたというかな、なんだこのくらいかと、これなら自分が湯田のサービスエリアのインターチェンジのところうちの工場がありますから、その前に自分でもつくっていいなと思うぐらいの規模でしたよ。大した金じゃない、あれをつくるのは。ただ運営はな、運営は素晴らしいなと、私もホテルの従業員とかその従業員に何人かにちょこちょこっと聞いただけでしたが、その経営の理念と運営は素晴らしいなと思いましたが、そのハード面、これは大したことはない。それをつけ加えること。できればな、泉源から千メートル以上離れてますから、温泉を掘ること。そして例えばグランビューのようなホテル、温泉、あれの2、3倍のいわゆるオーシャンビュー、城山観光ホテル、あるいは串木野の羽島にもちょっとちゃっちいのがありますけれども、ああいいういいのをつくるということ。それから3号線との高低差というのが恐らく、私は西園課長が詳しいでしょうが、15メートル、20メートルぐらいしかないと思いますから、そこからちょっと降りて3号線に、水引の小学校の前にある陸橋みたいのをつかって海岸まで下りて、海岸を散策する、そうすると4、5時間滞在するわけですよ。そこを目がけてわざわざくると。午前中は番所丘で遊んで、昼からそこで飯を食べてみたいかな、そういう規模の大きいのをつくってもらいたいというのが私の願いなんです。もちろん外からも入れる。ただ問題はいろいろありますよ。私は技術者じゃないから、土木の。わからんけれども、例えば下り路線に行った場合はどうするのかとか、そこに車を停めて、下を地下道で歩いて上り路線に行くのか何とかいうのは私はわからないところはありますが、それはこれからの検討課題になります。ただとりあえずそういう思いで今いると、ぜひ皆さん

に協力してもらいたいという思いであります。よろしく申し上げます。

#### 仮屋園一徳委員長

ありがとうございました。

それでは、ただいま説明いただきました請願第1号について、参考人に対する質疑に入ります。どなたか。

#### 岩崎健二委員

私も基本的には今の会頭のお考えに全く同感であります。ちゃちなものをつくっても仕方ないと思っております。理由的なものについては、金を別にすれば何とでもなると考えております。それから会頭をお願いしたいというか、お尋ねしたいんですが、これをやるとすれば、例えば物産館をつくった時に出す出店者、あるいは食堂をすれば食堂の経営者、私は前話したことがあったんですが、ガソリンスタンドも併設したほうがいいんじゃないかと考えておるわけですが、そのようなときに阿久根市内の業者でやれる人が見込みとしてあるのかどうか、をちょっとお尋ねしたい、いかがでしょうか。

#### 下園参考人

今の質問ですけど、私はな、一番の問題はそこだと思いますよ、まず運営責任者、経営者ですね、経営者のレベル、これを誰を選ぶかというのが一番の問題で、果たして阿久根市内にそういう人がいるかというところ恐らく私はいないとは言いませんが、何も阿久根市内で選ぶ必要はないと、もしできたらですよ、もう全国から募集するくらいのつもりでやらなきゃいかんと、その宗像を見てきて私が一番思ったのはですね、納入業者の選定と教育、もうこれが大事なんです。だからきょうも会議所に業者が税金の申告に来てますよ、私は漁業者のレベルを知っていると言えば語弊があるかもしれんけど、阿久根、長島ぐらいの漁業者、農業者ならなんとかなるんじゃないかと、教育の仕方じゃというふうに思います。これが大事だと思いますね、ただ要するに食堂とか、何とかもう、けさ鮫島君に話したばかりなんですけど、蓬莱館、私は枕崎にしょっちゅう行きますから、蓬莱館にも一応勉強のためにも寄ります。商品はよくないですよ、中にある商品は。食堂は結構いいんですよ、値段も安くて、そんな高級じゃないけれども、十三食堂が、これは名前をいっちゃいかん、例えばですよ、今のメニューと店のやり方にな、魚料理を5、6種類入れたら、蓬莱館よりはるかに上ですよ、はるかに上。だから十分できると思う、やるかやらんか別だけど、そして例えばさつき宮原とか基山を言いましたけれども、例えばソフトクリームがあったり、焼き鳥があったり、あるいはこういう練り製品、さつま揚げ等があったり、いろいろしますね、そういうのはやっぱり阿久根、長島を中心として店を出してもらいたい。これは十分いると思います。ただ、問題は経営者。

#### 岩崎健二委員

今後の、例えば燃料スタンドにつきましては、今後のことを考えると電気スタンド、あるいは水素スタンド等も考える必要がありやせんかと考えております。そこでそういう場合になった時に、阿久根の燃料の経営者の方でノウハウの勉強、そういうところのノウハウですね、電気スタンドあるいは水素スタンドの燃料のノウハウの勉強等々の指導というのについては会議所のほうではどんなふうにお考えですか。

#### 下園参考人

それはですね、恐らくこっちが言う前にな、もう恐らく7、8年後にできるとして、できるわけでしょ。すでにそのことを言って来る人がいるんですよ。だからそれは全く心配する必要はないと思います。ただな、ガソリンスタンドもと言って来る人もいるんだけど、無料区間でしょ、無料区間にガソリンスタンドが合うかなというのは、ちょっと私は

個人的には疑問に思っています。それともう一つな、さっき言い忘れましたが、その会頭会議で、私がそういう話をしました。そしてその後懇親会がありました。懇親会が終わって、私と鮫島君が帰ろうとしたら、南国交通の会長の渡辺さんが私を引き留めたんですよ、ちょっと待ってくださいと、さっき下園さんが言われたサービスエリア、阿久根の上につくるといふ件、ぜひ進めてくださいと、日奈久から市来まで何にもないと、無料区間、何とかここにできないだろうかと前から思っておったと、だから我々の観光業界としても、バス業界としても全面的に協力しますということは彼は言うてくれました。彼は岩崎芳太郎さんの片腕で副会頭ですから、実力は渡辺さんのほうが上なんですけどね。だからそういうことでな、我々も非常にこう自信を持っているんですよ、ある意味自信を持っているわけ。

[「委員長、最初に個人名が出たのはカットしますということで、最初からしとってください」と発言する者あり。]

### 岩崎健二委員

今回のものにつきましては、請願書を採択するかどうかということで、まずはスタートすることになろうと思います。その後、その詳細については、また所管課との協議ということになると思いますので、請願書について、これだけの阿久根市内の商工業者の方の強い意見を持ってやるのに、私たち議会がこれを否決するということは全く考えておりません。私の場合はそう思っておりますので、今後請願書を出された以上、会議所も一人の請願をされた第一人者ですので、何としてもやるんだという強い意志を持って議会とも協議をして行くという、何と言いますかね、意気込みをぜひお聞かせいただきたいと思います。

### 下園参考人

商工会議所が中心になって進めるというんじゃなくて、私はもともとはずね、こういうのは政治や行政がまず全面に出てやるべきだという思いを持っています。ただ行政が、ここにも来ておられますが、受け身なんですよ、受け身。自分たちがこういう立場にいる時に、やってやろうという気がない。話がちょっとそれるかもしれないけど、ただ岸信介が、満州国をつくる時にまだ37歳だったといいますよ。あのな、本を読んでみたらな、それはもう國治さん、笑うけど、だけどな、役人というのものな、もちろん岸信介と比較するわけにはいかんですよ。だけどそのくらいの気合を持ったのが一人くらいおってもいいんじゃないかという気がしてならないわけ。だから行政がな、まず受け身になるんじゃなくて、阿久根の10年後、20年後を考えたら、よしやってやるぞという思いにならんとだめですよと思います。

### 濱崎國治委員

参考人がおっしゃるとおりですね、民間ではですね、とても設置は難しいと思います。と言いますのは、この道の駅になるのか、どういう形式になるのかはわかりませんが、行政が主体的にならざるを得ないというのが、この道の駅とかサービスエリアの鉄則ですので、行政がですね、だから民間の方々が活性化のためにぜひこういう施設をつくってほしいという請願でですね、これは動くのはですね、行政でなければはいけません。と言いますのは、今の道の駅でもですね、国土交通省がいろんな設備をつくっていますけれども、運営については、第3セクターなんですね、行政が何らかの関与を持っていないとできないということになっているんですよ。そういう意味からもして、行政がですね、当然設置せないかんというふうに思っています。そこで、問題は先ほどおっしゃいましたけれども、ある程度の規模でないといけませんという状況になれば、さて、財源をどう求めるかというのが、今度は行政の課題ですね、そこで参考人はどういう考えをお持ちですか。

## 下園参考人

これはですね、そこまで深くは考えていないと、個人名を出せばいかんということなので、なんとなく言いにくいんですけども、やはり県とか国とか、県会議員、知事、国会議員、これはもう動かさんといけないと思いますよ。私は相手、関係ない名前は挙げていいですかね。3月8日に私は武部勤さんの会に東京に行ってきました。これは東大の弥生講堂というところでありました。3月10日は宮路拓馬の会に行ってきました。ここには大臣も、大概、森山大臣からたくさん来ております。やはりそういうところのパイプというのをしっかりしながら、行政のほうをお願いすれば、それは我々は側面から行政ができないようなこともできますよ。別に法には触れませんが、だから、そういうふうによっぱり連携してな、さっき言ったTPP、官民連携というものをば、しっかりと守ってやっていけば、いかなきゃいかんだろうなという思いでおります。何も行政に全て任せるというんじゃないくて、行政主導でやるんだけれども、我々も積極的にやりますと、例えば、さっきここにおった次の専務という寺地がこれを会議所が口に出す以上、来年度の予算に額を上げんといかんですかと私に聞いたから、いいから、それは私は自腹で行くからということで私は切ったんだけれども、そういうのはもう全部我々も積極的に協力しますけれども、やはり行政が主導してな、もう本当にやる気になってもらいたいと、だからその行政をば、議会の皆さんが尻をたたいてもらいたいというのがな、今度の請願書の一番のねらいかなというふうに思ってますよ。

## 濱崎國治委員

いろいろ、県、国等の支援を受けながらという話もありましたが、なかなかこの道の駅については、国、県の助成がないというのが状況ですね、ほとんどのところが、単独でするか、大川の道の駅については国土交通省が直轄、最初だということで、かなりの投資をしてくれましたけれども、なかなか新しくできるところについては、地方公共団体が、設置してということで、なかなか助成も少ないし、特に南九州西回り道に関しては、国土交通省の許可もいるという状況の中でですね、非常に難しい点もあるんじゃないかなと同時に、今の道の駅の、大川の道の駅あくねとの関連性がまた出てきます。特に10キロの、10キロごとに大体1か所というのが道の駅の今までの状況ですので、今の道の駅との関係をどうするかということも含めてですね、非常に今後検討すべき課題は多いと思います。ただ、先ほど来、経営をどうするかということでもありましたけれども、これについてはかなり複数の方がどうなるんだろうか、設置する場合はやりたいんだがとかですね、そういうのも耳に聞こえてきますけれども、管理からすれば、つくれば成功させないかんというのがありますので、そこんところは私は、設置された後は成功させないかんということで一生懸命になるので、何とかできるんじゃないかと思えますけれども、問題はその設置資金をですね、どう捻出するかが、私は非常に大きな課題だというふうに思います。これについては、設置については、今後の阿久根市の活性化を見据えた場合には、必要な施設だなというのは思えますけれども、課題も多いなというのは思えます。そこで、会議所の会員の方はほとんど、これについては、賛同していらっしゃると思いますので、問題ないと思えますけれども、市を動かすにはやはり、気運を高めるというのも一つ大事なことだと思いますけれども、その辺についての意気込みはどうか。

## 下園参考人

先ほども言いましたが、会議所の全議員が賛成してくれたと、これ一人一人当たっております。そういうこともありますし、今度私は常議員会、総会、今月中にありますから、そういうところでも強く言っていきます。ただ、ロータリークラブでも、いろんな場所で

ももうこの話は、いろんな場所ですてしております。ですから気運を盛り上げるというのが大事だというふうには思うんです。ただ、今濱崎さんが言われたように、非常に難しいとも思うんですよ。簡単にはいかない、今言われたとおりの問題点があると思います。特に無料区間にはつくらないというのが原則論ですし、また大川の道の駅との兼ね合いをどうするかということもありますから。あんまりはっきり私どもがこういうふうなのをと言えないのは、いくつかの選択肢を持ってですね、ここがこういうやり方が一番いいんじゃないかというのを探っていきたいと、実はいろいろと頭にあるんですよ。あるんだけど、自分たちの思うどおりのことができるわけじゃないですから、当然相手もおります、国もある、県もありますから、そこの兼ね合いの中で、これから一番最善の方法に向かってやっていきたいというふうに思います。気運はできるだけ我々も盛り上げますから、ぜひ議会のほうもですね、応援してもらいたいというふうに思います。これができるかできないかな、あるいは出水にとられたり、川内にとられたり、川内もですね、西方とか湯田につくろじじゃないかという声があるそうです。だけど私が川内市役所の幹部に聞いたけど、それは無理だと、川内はほしくないということを言っておりました、いろんな理由で。だから川内は恐らくそういう声が上がってもしないだろうなど。できるとすればですね、まさに私のうちの工場の前あたり、そこしかないんですよ、物産館ができるとすれば。だけど物産館も普通の物産館じゃ、どこですか、あれは、芦北の次の、田浦なんかがもう全然客がおらんでしょ。芦北はまだ結構おりますけどね。ああいうふうにもう普通の物産館じゃだめなんです。だから、こういう、西園課長の前だけでも、桜島に次いで景勝地としての2番目に文化財遺産に登録された牛之浜海岸とか、あるいはできれば私は市長には軽口で言うたんだけど、そこに河南源兵衛記念館、謝文旦記念館も併設してもいいじゃないかと、そうすれば中国の人を呼べるかもしれんじゃないかと。そういうことも言ったんだけど、ストーリー性のある施設ですね。そういうものをつくっていかないとだめだと思ふんです。ただの物産館とか何とかじゃ恐らくだめだと思ふんです。ただ言われるように、その財源をどうするかと、あるいは今の道の駅との兼ね合いはどうするかと、この辺は非常に難しい問題だと思ふんです。けども、さっき私が言ったように、岩崎芳太郎さんが言ったように、行政を相手にするな、政治家を相手にせいというのがそこで、これはやっぱり政治力である程度変えられるんじゃないかというふうには、私は思っております。

#### 白石純一委員

私もこのエリアにサービスエリア等を建設することについては賛成です。百何キロにわたってトイレがない、休憩するパーキングがない、そしてガソリンの給油もできない。ということではいくら無料区間とはいえ、やはり旅行者、運転者の立場になったら何らかのやはりサービスエリアがあつてしかるべきだと、それを阿久根が提供するということについては、大変意義ある、阿久根のPRに大いになると思ふんです。そしてこの場所、皆さんもそうでしょうけれども、さまざまなサービスエリア等見られていると思ふんですけれども、この場所、海を見下ろす景勝地。そして、しかも夕日が見えるサービスエリアというのはなかなかございません。少なくとも、今まで私が経験した中でそういったサービスエリアはありませんので、必ずや注目を浴びるものとなると思ふんです。ただし内容についてはですね、これから皆さんと協議していかないかと思ふんですけれども、私は必ずしも大規模なものではなくてもいいと思ふ。つまりここに、このサービスエリアに降りてみたいと、車を止めてみたいと思わせるものがあれば必ずしも大規模なものではなくてもいいと思ふんです。例えば海、夕日が見えるトイレだとか、サービスエリアの一番の目的はトイレですから、誰もが、

## 仮屋園一徳委員長

質疑中ですけど、ちょっと委員にお伝えしますが、質疑の時間ですのでできるだけ質疑を簡潔にお願いします。

## 白石純一委員

ですから、私は必ずしも大規模なものでなくてもいいと思う。必ず人がここに降りてみたいと思わせるサービスエリアがまず第一の目的。でそこから阿久根のものが売れるもの、そして阿久根に市内に人が誘引される施設がまず最初の目的だと思いますので、必ずしも大規模ということに私はこだわらなくてもいいと私は思っておるんですけども、その点についてはいかがでしょうか。

## 下園参考人

私の考えとはちょっと違うんです。いわゆる通行して寄ってみたいというんじゃなくて、わざわざそこに行ってみたい施設をつくりたいわけですよ。阿久根のサービスエリアに行ってみたいなあ、あそこに行けば温泉もある、また下に行けば素晴らしい海岸もある、また例えば、あれはどこな、愛知県の荊田、刈谷か、この間市役所でもそんな話が、宮之城の日本特殊陶業ですかね、あそこの役員から出ましたけれども、あれの何分の一かと、あれはもちろントヨタがだいたい金を出してるという話ですけども、そういうですね、言ってみればテーマパークに近いような、わざわざその行くようなものをつくれないうるかという思いがあるんです。ただ通行人がそこに寄ってちょっとトイレにいったりどうのこうのというのも、もちろんそれも大事ですけども、できればそこを目がけて来るような施設ですね、それが欲しいと思っています。

## 白石純一委員

わざわざ行ってみたい、私は全くそれと同じ考えです。ただし、そこに必ずしも大規模な商業施設がある必要はなくて、それは例えば近くに道の駅もあるし、あるいは市内に足湯があってもいい、海を見下ろす足湯があってもいいと思うんですけども、そこから、それで阿久根をPRするための入り口であって、例えば阿久根の市内にこういう施設がある、そして今度は阿久根に行ってみたいと、あるいは時間があればここで降りて阿久根に行ってみたい、阿久根のまち中に行ってみたい、阿久根の有名な食堂に行ってみたい、そういったものというのも一つの考え方だと思うんですよ。ですから、ここで必ずしも大規模な商業施設がなきゃいかんよ、ということに限定する必要は、私はないと思っています。

## 下園参考人

一番の問題点はですね、一番か二番か、要するにそこに来て、パーキングエリアに来てそのまま帰ってしまうと、そこで事足りるわけですから、食事をして、いろんな魚やら農産物を買ってと、いうことで市街地を全く無視するというような施設になれば我々も困るんです。だからそこの結びつきをどうするかと、例えば阿久根の港、旧港なら旧港に5、6坪の店舗をずらっと並べたような、そういうものをつくってあるいは二つを行き来するような形にするのか。それはこれからの商工業者、あるいは地域の知恵だと思いますよ。だからそこは確かに問題ではあります。それは知恵の出し比べだと思いますね。

## 牟田学委員

基本的な考えなんですけれども、そのサービスエリアに物産館をつくるとしてですよ、上りなのか下りなのか、海を見せるのであれば上りになりますよね。上に1つ、下に1つつくるというわけではなくて、海が見えるのであれば上りの方につくって、じゃあ下りからは陸橋かなんかで結ぶというような、そういう考えもあるんですか。

## 下園参考人

まさにそのとおりです。私はな、初めてこの間気付いたんだけど、桜島にパーキングエリアがありますよね、桜島ってあの空港道路の、あそこに外からも入れるって知ってましたか。知った。私は知らなかったんですよ。この間、始良に葬式に行ったら、あんまり早く着いたもんだから、時間をつぶさないかね、と試してみたらその高速道路の横を通ったら、パーキングに行く下に地下道があって、裏側に駐車場があるんですね。そこに車を止めて歩いて中に入れるんですよ。だから、ああいう感じかなあと私は思っています。ただ、下りの人たちが下りのそこに車を止めて人間だけ歩いて海岸の方の上りのほうに来るのか。あるいはもうちょっと先に行けば大川のインターチェンジがあるわけですから、そこで降りてまたこう上がってくるというのがどうかなあという、その辺までは私のわかるところじゃありませんけれども、その辺は難しいところですね。一番いいのは車ごとバーって行ける地下道ができればそれに越したことはないでしょうけれども。

### 野畑直委員

今話を聞いているとですね、サービスエリアはできるんだというような話で進んでいっているんですが、まず、今会頭が考えておられるこの場所にどうしてもサービスエリアを建設したいんだということで、それに向かってどうするかというのがまず先決で、それには先ほどから話にもでておりますように、県議にも、国会議員の人たちにもお願いしながら、まず建設ができるのかどうか、できるんだったら上下線できる、あるいはその下の3号線からも乗り入れができるようなものというようなものになっていくと思うんですけども、まず、建設に対してどのような形をとっていくかということをもまず議論すべきだと私は思っているんですけども、今後そのことについて行政、我々議会も、商工会議所も一体となって今後話をもうちょっと詰めていって、国土交通省なんかの考え方も聞いていくにはどうするかということが先決だと思うんですけど、皆さんの考えは、もうできてそれに何をおいて、どうしてというような先々のことになっていくという話になってるようですけども、その辺について会頭も同じような考えだと思うんですけども、今後一体となって、きょうだけの委員会ではなくて、今後話し合いは重ねていかないといけないと思ってるんです。その辺のお考えはどうですか。

### 下園参考人

全く同じなんです。ですからさっきも言ったように大した準備をできてませんと言ったのは、そこまで具体的にまだ話をする段階じゃないものですから。例えば会議所の議員の中にもですね、土地は何坪あるんだ、建物はどうするんだ、こうするんだ、いろいろ質問してきて、私と感情的な口論になる場合もあるんですよ。まだその段階じゃないんだと。まずみんなでそこにつくってもらおうということが大事なんだと。下手にあんまり具体的にああだこうだと言いつつと、それはこうじゃないかああじゃないかと、逆に欠点をつかれるぞと、実現ができないぞということで今言ってるくらいなんです。ですからとりあえず、まずここにつくろうということが先決で、今まで言ったのは、つくるとすればこういうものがほしいなあということであって、具体的にどうこうというのではありません。これは期成会みたいのをつくって、当然行政が中心となって会議所やらいろんなところが集まって、そして話を進めていくというようなことになろうかと思えます。

### 仮屋園一徳委員長

ほかに。

### 山田勝委員

牟田委員が言うようにですね、陳情を採択してですね、国及び県と一緒に陳情に行く、あるいは代議士にお願いしていくということは、とりあえずはそういうことを具体

的にする、そういうことですよ。私が一番思っているのは、知事がですね、私が近頃よく耳にするのが、知事がないか阿久根からプロジェクトを出さんかて、何十億というどんよかで、頑張ってるってという話を耳にちらちら、ちらちら聞くんですが、知事はどう思っているのか、会頭なんかがよくお会いされるんじゃないですか。

#### 下園参考人

知事はですね、2年前でしたかね、1年半くらい前ですかね、何の会だったか忘れましたが、出水のキングで100億準備をしていると、この出水地区に。だけど何も言ってこんと、早く言ってこいというようなことを言いました。そこで私が懇親会になった時に、出水の今度は岩崎さんと二人で、知事、本当に今言ったのはほんとなど、100億準備しているというのはほんとなど、そしたらほんとだと彼は言いました。この間、小里さんの新春懇談会に来られた時も100億という話をされたでしょ。もちろん出水地区で100億。だから私は市役所で、2階で川内、宮之城、阿久根、出水の話し合いの時でも知事はそう言ったじゃないかという話をしました。これは西園課長もおられました。だから知事はやる気は、私はあると思うんです。具体的にそれを持っていけば。もう今度は仮に当選したとしても最後ですから、恐らく。だから何かやりたいという気はあると思うんですよ。だって須賀知事が知事の最後に水産試験場もあっちに、指宿に持っていったでしょ。これはうわさだけど。だけどそういうもんです。政治家という何か残したいとしますから。私はな、ちゃんと阿久根が一生懸命なってくればできると思います。長島もですね、きょうも私は古田君と話をしたんだけど、商工会でも全員賛成でした、阿久根につくるというので。というのは、折口につくればやはりだんだん市場、やっぱりこたえますよ。だから阿久根に、こっちにつくってもらって、長島の魚も売りたいと。ところがですね、これは古田君の話ですよ。長島の町議会が今一つ積極的になりきらんと。あれに言えば誰に言え、誰に言えあれに言えて言うてならんもんで、あそこはもういわゆる川添町長の命令以下、だから町長に言わないかんということで、18日と言いましたかね、一応、古田君と商工会の副会長が直接川添町長と話をするんだそうです。だから長島も全面的に賛成してくれてると思っていいと思います。私はな、話はまたそれるかもしれんけど、去年の5月に川添町長と東京で一緒に、二人いろいろ話をしました。川添町長はこんな言いましたよ。確実にできることとかなんだかんだて、役人が言うようなことばかり言うてれば、長島・阿久根は何にもできないと、発展しないと。たまには一か八かと、あるいは実現するかせんかということもぶち上げて、それに全力投球せんことにはだめだと。だから私は獅子島、獅子島に150億かかると、今の予算で。できないとみんないうけど、それに向かって今一生懸命取り組んでいるんだというようなことを言ってました。やっぱり私はな、阿久根の政治・行政もそのくらいのものを持っていかんということ、阿久根の分相応なものをやっていけばいいじゃないかということばかりやったら、それこそ1万4千人に減りますよ。どうせその頃は阿久根はないでしょうけど、川内か出水と合併してるでしょうけれども。だからそこをな、もうちょっと気合を入れて取り組んでもらいたいなという思いをしているんです。

#### 山田勝委員

今、会頭が知事の100億がずっと動いてるもんですからね。ですから、なるほどいうようにですね、事務レベルな話じゃなくて、知事がどう考えているんだいと、阿久根にこうしてサービスエリアを、阿久根にサービスエリアをつくってくださいよ、金も援助してくださいよ、なんとかしてくださいよ。まず、サービスエリアをつくることは、なら阿久根につくりましょうという現に一つの動きとしてですね、あとは内容についてまで今言っ

たらですね、非常にやはりいろんなことが出てきますからね、今はサービスエリアを今会頭が言われるあそこにつくるということのみにね、集中せないかんと思いますよ。物産館をつかって何をつくったりしたらぜんがどひこかからい、もう賛成があったり、反対があったりしますからね。だから、サービスエリアを阿久根につくることに鹿児島県もしてくださいよて、言うくらいだね、私はそれで突っ走らないかんと思います。政治レベルでないと、事務レベルじゃだめですよ。ですから政治レベルでこれをしていかないかんと思う、絶対。私は今でも言ってるんですが、JR九州を分離するときにはですね、相当すったもんだがあったじゃないですか。私は今でも鹿児島県は阿久根市に相当なつけを残してくれていると思いますよ。阿久根駅もですね、阿久根駅もあれは県が全部つくってやっていい施設ですよ。あれでそれだけ犠牲を払いました。JR九州分離の時にですね。簡単に言ったら県議を変えたじゃないか、あれだけのことでですね。だから私は鹿児島県は阿久根市に相当なつけがあると思いますよ。だからそれをやはり前面に出してですね、阿久根にサービスエリアをつくってくれということで進まない、今大きな何十億かかるような話をですね、持って行ったって話にならんから、国土交通省もうんと言いませんよ。私は、会頭、このサービスエリアをつくるということを鹿児島県知事も巻き込んでですね、まず陳情書をつかって、一緒にですね、知事のところに行き、あるいは国土交通省に行き、代議士を巻き込んでやるということが必要だと思います。ですから、この陳情書を採択することについてはやぶさかでないですよ。これはやはり早急に採択をして、その動きをせないかんですよ。

#### 下園参考人

今、言われるとおりになんです、ただ出水が針原に陳情してるけれども、あとの祭りだと。要するに図面ができてから、ああしてくれ、こうしてくれと言ったって始まんわけですね。だからある程度はこういうものをつくりたいと、そのためには設計の段階でやはり考えてもらいたいということが大事で、まずただつくるというだけじゃなくて、もちろんつくるといのが大前提ですよ。だからそれをつくるに当たってはこの程度のものをつくってもらいたいというのも合わせていかんことには、図面ができてしまうとですね、どうしようもないわけですよ。1回降りて、いわゆるインターチェンジを降りて上がった物産館とか、サービスエリアというのならできるでしょうけれども、市が全部持つてというのならですね。その辺を兼ねた進め方というのをしていかないかんのではないかと思います。

#### 山田勝委員

会頭ですね、そういう計画はつくるならつくるでいいですよ。そういう計画も乗せてですね、私は基本的には、国及び県が全部持つてくれるということで進んでいかないと、今阿久根市にですね何億、5億、10億出せってできないわけですから。だから、国、県がなんとかしてくれる、してくれないかなよ、という形で今進めないかんと思いますよ。

#### 下園参考人

そのとおりだと思います。そのとおり、だから、もちろんさっき鮫島君に3号議員ときのうもいろいろ話をしたという話をしました。ここには18日に国会議員も来ます。そこで私も呼ばれることになっておりますけれども、やっぱりその人がいうのも全く同じことなんです。やっぱり国や県に金を出してもらってつくるようにせいということですね。ただ、あんまりそれを前面に出しますと、国や県も手を引くんじゃないかと、やっぱり市もやる気を出しでもらわんことにはと、いうことでこういうふうになっている。だけど、本音の部分は市ができるわけありませんから、そんな大きな金を、だから国や県にやがては頼

らざるを得ないということだと思います。

#### 中面幸人委員

この請願書はですね、参考人の思いもしっかりとわかりましたので、今、測量とか進んでおりますので、早めにやっぱりそういう思いを伝えなければならぬので、早く期成会等つくるような段取りせないかんとするんですよ。そういうことで、大体思いはわかりましたので、次に進んだらどうですか。

[発言する者あり]

#### 濱崎國治委員

この請願書によればですね、建設候補地として薩摩大川のここをしてあるんですが、参考人としてはいわゆる今、予定されている大川のインターを降りたところとお考えですか。それともベターとしてはやっぱり本線上の左右にという、そういう請願のお考えなんですか。そこだけ伺います。

#### 下園参考人

一番いいのはですね、そういう大川のインターチェンジを降りて、いわゆるインターチェンジを利用した場所が一番いいと思うんですよ。そこには土地がないんですよ。特に海岸沿いは3号線と西回り自動車道、ほとんど西園課長、これは名前を言っちゃいかんのですか。あんまり差がないでしょ。

#### 仮屋園一徳委員長

休憩に入ります。

(休憩 15:21~15:24)

#### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員の皆さんから。

#### 濱崎國治委員

参考人はこの建設耕地として、大川のインターを降りたところと今のところお考えですか、それとも本線のサイドというそういうお考えですか。

#### 下園参考人

インターを降りたところというか、そこに場所があれば私はそこが一番いいと思ってます。ただそこはどうも場所が立地的に問題があるんじゃないかというふうに聞いたもんですから、じゃあ、それならその次にということになれば、インターを降りた一番近いところですね。そうすれば望海から愛甲運送のあの辺なら、削れば結構な敷地が取れるんじゃないかと思っております。

#### 濱崎國治委員

今の話からすれば、薩摩大川か牛之浜、どっかその辺というお考えでの請願ですか。

#### 下園参考人

そのとおりです。牛之浜というより、牛之浜もあんまり先の方に行けば海岸も見えませんか、できるだけ愛甲運送からこっちぐらいのところですね。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかに質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、請願第1号についての審査を一時中止します。

以上で、参考人に対する意見聴取を終わります。

それでは、ここで委員会を代表してお礼を申し上げます。本日はお忙しい中にもかかわらず、本委員会に御出席いただきありがとうございます。本日、お聞きいたしました意見は審査に有効に活用させていただきますので、何とぞよろしくお願ひします。本日は長時間にわたり本当にありがとうございました。

この際、暫時休憩いたします。

(参考人、補助人退室)

(休憩 15:26～15:35)

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

参考人への意見聴取が終了いたしました。ここで、委員の皆様から意見を伺います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、まず、平成27年陳情第14号、新規創業者（予定者）を支援する補助金の創設の陳情書について、委員間討議に入ります。

[「なし」と呼ぶ者あり]

討議なしと認めます。

これにて討議を終結します。

次に討論に入ります。

#### **濱崎國治委員**

私はこの陳情第14号について、参考人の意見等も聞き、この内容からしましても採択すべきものと、賛成の意見をさせていただきます。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

#### **仮屋園一徳委員長**

ほかにありませんか。

#### **中面幸人委員**

この陳情についてはですよ、やはり地方創生の戦略版か、あれなんかでもですね、例えば人口の定住移住の問題とか、空き家対策とかいうのも載っていますので、それは関連してやっぱり、関連づけていけないといけないと思うんですよ。だから、一応私的には意見書をつけてですよ、執行部側にですね、意見書をつけた上で採択というふうな形で、私はできればなど思っているんですけど。

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩に入ります。

(休憩 15:37～15:38)

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩前に引き続き、会議を再開します。

#### **野畑直委員**

この陳情についてはですね、商工会議所のほうから説明資料等をいただきました。それに出水市、いちき串木野市、薩摩川内市等がもう始まっているようですので、阿久根市の取り組みもだいぶ遅れていると思いますので、陳情について採択して進めていったらいい

と思います。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

#### **山田勝委員**

阿久根の創生の一つとしてでもね、これは早急に取り組むべきだと思って賛成です。

#### **仮屋園一徳委員長**

それでは、これにて討論を終結します。

それでは、採決に入ります。

本採決は挙手により行います。

ただいま議題となっております平成27年陳情第14号、新規創業者（予定者）を支援する補助金の創設の陳情書について、採決とすることに賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

全員挙手と認めます。よって本陳情は、採決とすべきものと決しました。

次に、請願第1号、南九州西回り自動車道サービスエリア等に関する請願書について、委員間討議に入ります。

[「なし」と呼ぶ者あり]

討議なしと認めます。

これにて討議を終結します。

次に討論に入ります。

#### **岩崎健二委員**

賛成の立場で討論を行います。南九州西回り自動車道サービスエリア等に関する請願書について、採決すべきものと考えます。この西回り九州自動車道のサービスエリアは約100キロ区間に何もないことから、阿久根市においてサービスエリア等を建設することに、期成会等をつくってでも一生懸命頑張っていくべきものと思います。よって、請願書は採決すべきものと思います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩に入ります。

（休憩 15：40～15：41）

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

これにて討論を終結します。

それでは採決に入ります。

ただいま議題となっております請願第1号、南九州西回り自動車道サービスエリア等に関する請願書について、採決とすることに御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認めます。

よって、本請願は採決すべきものと決しました。

ただいま、請願第1号、南九州西回り自動車道サービスエリア等に関する請願書は採決すべきものと決しましたので、請願趣旨にあります意見書提出の件について協議願いたいと思います。ここで暫時、休憩いたします。

(休憩 15:42～15:44)

### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き委員会を再開します。

ただいま配付いたしました意見書案につきましては、本委員会から議宛て提出することに御異議ありませんか。

### 濱崎國治委員

これはどこに提出するんですか。

[発言する者あり]

### 仮屋園一徳委員長

関係機関にということによろしいですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認め、本意見書案を本委員会から提出することに決しました。

以上で本委員会に付託されました案件は全て議了しました。

ただいま議決されました案件に対する委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認めます。

よって、ただいま議決されました案件に対する委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては委員長に一任されました。

次に、広報広聴委員会委員長から本委員会宛て阿久根市議会だより原稿の提出依頼がありました。委員の皆様から記載内容等について何か御意見はありませんか。

[「なし」、「委員長一任」と呼ぶ者あり]

それでは、原稿の記載内容及び提出については委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

御異議なしと認めます。

よって、阿久根市議会だより原稿の記載内容及び提出については委員長に一任されました。

以上で今産業厚生委員会を閉会いたします。

(閉 会 15時46分)

産業厚生委員会委員長 仮屋園 一徳